

# 傷病者情報共有システムについて

# 1 運用開始日時等

救急隊と医療機関が傷病者の情報をオンライン上で共有する  
「傷病者情報共有システム」の運用を

**令和8年3月18日（水）午前8時30分から**開始します。

**【システム導入部隊及び医療機関】**（令和8年3月18日時点）

**救急隊：全救急隊**（臨時的に編成する増強救急隊等を含む全122隊）

**医療機関：58医療機関**（横浜市救急医療体制に参加する全医療機関）

令和7年救急搬送の受入割合：91.8%

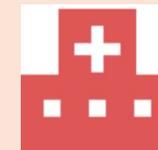
## 2 システム概要

### (1) 病院選定の流れ

救急隊 

傷病者の観察・応急処置・情報収集 →

症状・バイタルサイン・負傷部位の状態等を  
医療機関と共有



医療機関

### (2) 情報共有の方法

【現在】

所定の記録用紙に手書きで記載



口頭伝達



【システム運用開始以降】

タブレット端末等でシステム入力



<傷病者情報共有システム>



入力



インターネットクラウド

閲覧



### 3 システム導入による主なメリット

#### ① 傷病者情報の正確な伝達

【導入前】  
電話で口頭伝達

➡

【導入後】  
データで共有

伝え漏れや聞き間違いなどの  
ヒューマンエラーを防止

#### ② 受入医療機関決定までの時間短縮

【導入前】  
要請時に口頭伝達

➡

【導入後】  
事前に確認

受入要請のための通話時間が短縮

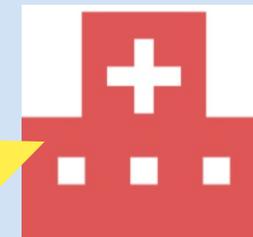
#### ③ 搬送受入後の速やかな治療開始

【導入前】  
口頭で説明

➡

【導入後】  
画像や動画で共有

正確な情報をもとに医療機関が  
傷病者到着前に必要な準備の実施



## 4 市民の皆様に向けた広報

消防局ホームページやSNS等を活用して、市民の皆様にお知らせしていきます。

① データで情報を医療機関と共有し、円滑な救急活動を実施するため、  
救急隊員が救急活動中にタブレット端末やスマートフォンを操作すること

② 氏名等をAI-OCR機能※を利用してシステムに取り込むため、  
タブレット端末等のカメラで本人確認書類の読取りをお願いする場合があること

※AI-OCR機能…AIを活用して紙や画像に含まれる文字情報を認識し、デジタルデータに変換する技術

③ 医療機関に正確な情報を伝えるため、  
負傷部位等の撮影をお願いする場合があること